



森林環境譲与税を使って  
整備を進める高崎自然歩道

市から届いた今年度の納税通知書には、「森林環境税一、〇〇〇円」という記載項目があります。これは何だ？と思われる方も少なくないと思います。



この森林環境税は、今年度から徴収が始められるもので、温室効果ガス排出削減や、災害を防止する目的の森林整備の財源とする国税です。税の徴収については、市町村が行います。

税額は、前述のとおり一人当たり年額一、〇〇〇円で、全国では約六、〇〇〇万人の納税義務者がいるため、国の税収は約六〇〇億円に達します。

国では、この金額を人口、人工林面積、林業従事者数などの基準に基づき、都道府県と市町村に「森林環境譲与税」として配分します。

### 幅広い用途をもつ森林環境譲与税

一方、森林環境譲与税ですが、すでに令和元年度から地方自治体には前倒しで配分され、事業の財源として使われています。

森林環境譲与税は、間伐や人材の育成・確保、木材利用の促進や普及啓発等の幅広い事業の費用として使うことができ、具体的な使い道は、自治体の裁量に委ねられています。

各自治体での使い道は、自治体のホームページで確認することができます。



鎮守様の木として慕われて400年  
左がイチョウ、右がケヤキ

倉渚町榎田の国道四〇六号線から、南の烏川方面に延びた参

### 連載

## 烏川流域の巨樹・巨木 Vol.5

つばき な

### 椿名神社の大ケヤキと大イチョウ

拝殿を守るようにそびえる2本の巨樹

巨樹・巨木は、その地域の歴史とともに歩み、文化を育んできた地域の宝です。組合の管内にも多くの巨樹・巨木があります。管内の木々を皆さんに紹介します。

道をたどると、田んぼに囲まれた古社「椿名神社」があります。由緒によると、第二代綏靖天皇の御代に創建されたとの記述があります。

神社の境内には大きなケヤキとイチョウがあり、それぞれ高崎市指定天然記念物に指定されています。

戦国時代の戦乱で社殿が焼失したため、現在地に再建されたという記録から、どちらも樹齢四〇〇年を超えると推定されます。

大ケヤキは樹高32m、幹周6.4m、一方の大イチョウは樹高34m、幹周6.8mあり、少し離れた国道からも、その大きさが確認できるほどです。